

私たちが創る朝倉市の未来

第5回朝倉市の未来予想図 高校生の提言

10月24日、朝倉市内外の高校生が、若い世代に朝倉市に移住・定住していただくための事業について提言を考え、発表しました。当日は審査委員により、提言の独創性などについての審査が行われました。高校生ならではの自由な発想と、アンケートなどを基にしたデータを用いた提言が発表され、これからの朝倉市について考えるきっかけとなる発表会でした。



「『出産だけでもどうですか？』からの移住・定住促進計画」
朝倉光陽高校3年
「政治・経済」選択者Bチーム



「若者と歩むー若者の朝倉市移住計画案ー」
朝倉東高校3年
朝倉市移住計画推進委員会



「朝倉市の未来のために私ができること」
朝倉東高校3年
ASAKURA若い世代に住んでもらい隊

人口増加に必要な環境として「働き、産み、育てる」の3つがあげられ、その中でも「産む」環境の充実が必要で、そのための事業として3つの柱を提言します。

1つ目が、原鶴地域とその周辺に産婦人科を含む各種病院を誘致し、温泉旅館と提携し現代の湯治場を作ります。

2つ目に、原鶴温泉付近の廃業した旅館のビルや空き家を活用し、市営の出産前後滞在型リゾートホテルを作ります。妊婦さん向けに平屋に改修し、格安で宿泊できるプランを設けます。

3つ目に、市内での出産に対しての補助金支給や、子育て支援として、税制上の優遇や改修した空き家を家屋として提供します。さらに、助産師優待券の発行など、市内滞在中に妊婦さんへ手厚い助成を行い、市のファンになってもらい、定住を促します。

20代〜40代の若者の朝倉市への移住計画案を提案します。朝倉市は果樹、農産物の生産が盛んななど良いところがありますが、知名度が低いのが問題点です。

そこで、移住を希望する若者たちそれぞれにニーズに合わせた、移住セミナーを積極的に開催します。また、市のホームページに必要情報をもとめたページを作成します。さらに、実際に朝倉市を訪れ、知ってもらいたいツアープランを企画し、移住へのニーズ集めや情報発信を行います。

あわせて、朝倉市公式ブログの作成や、市キャラクター名義でSNSを活用するなど、市のホームページへのアクセス経路を増やすことで広報活動を充実させます。

加えて、広報を専門とする企業などから有志を募り、市のPRに協力してもらいます。その際、行政の役割として、ルール作りなどの全体調整やサポートが挙げられます。

全国の若い世代、子育て世代の移住、定住を促進するためには、マスメディアを活用して朝倉市をPRすることが必要です。その際ポイントとなるのは、市の教育の充実、給食費の引き下げ、地域との交流、子育て事業の推進です。

教育の充実については、外国語教育の充実や学校、地域、家庭の連携を図るなどを行います。

給食費の引き下げについては、市内の農作物を活用し、早い時期から大量発注を向け、コストダウンを図ります。

地域との交流については、自治会などでのコミュニケーションを活性化させ、学校と地域で様々な行事を行い、若者の交流の場を作ること、安心、安全、快適に住みやすい町にします。

子育て事業の推進については、移住する結婚一年以内の家族や、子どもが二人以上いる家族に対し、家賃を助成する「あさくら子育て・転入応援事業」を行います。



「住みやすい朝倉市」
朝倉高校2年
あ！さくら開花チーム



「都市部からの大家族の移住を促進する事業」
朝倉光陽高校2年
「政治・経済」選択者Bチーム



「朝倉市夜景（景観）スポット拡散作戦」
朝倉光陽高校3年
「政治・経済」選択者Aチーム



「いつ行くの？今でしょ！～おいでよ！アサクラプロジェクト～」
明善高校2年
朝倉市改革支援チーム

住みやすい朝倉市をコンセプトに提案します。

まず、市内の主要な交通機関である西鉄バスの利用者を増やすため、バスの増便、バス停の整備や乗車マナーの啓発を行います。また、コミュニティバスの利用も増やすため、認知度を高める取組や、地域間を結ぶことで運行範囲の拡大を行います。

次に、農業をしたい若者の増加を背景に、土地を持たない若者に対し土地を提供し、地元の人による農業指導を行うことで、就農・定住を促します。

さらに、市ならではの祭りや伝統行事を、若い世代が参加しやすいよう改善することで、観光客の増加、地域の活性化が期待できます。

朝倉市に提言するのは「都市部からの大家族の移住を推進する事業」です。事業としては、庁舎の空きスペースや空き家など、既にあるが有効活用されていないものを活かしながら、誰もが参画できる、個人負担が少ない事業が望ましいです。

また、朝倉市は知名度が低いため、積極的な情報発信が必要です。さらに、都市部から大家族（親、子、孫）で移住をする場合や、既に市内に親が住んでいて子と孫が移住をする場合に、お得となるような仕組み（介護用品の低価格リース、購入補助等）をつくり、移住を推進します。その際、朝倉農業高校跡地を市営の住宅に改修し、活用します。

あわせて、大家族それぞれの世代によって異なるニーズに合わせて、バリアフリー化の徹底などの政策が必要となります。

大人のデータスポットについて、定番と呼ばれるものを調査しました。その結果、水族館や公園、夜景スポットなどが定番だとわかり、その中でも、自然が豊かで、静かな朝倉市では「夜景・景観スポット」が一番実行性があると考えました。

そこで、朝倉市役所内の独身職員により夜景・景観スポットとなるような場所を調査し、地図化します。その地図はデータとしてSNSなどで拡散し、カップルに朝倉市を訪れてもらいます。場所の整備は市内高校生などボランティアを募ります。

また、朝倉市出身のタレントを起用したCMを作成し、カップルを呼び込みます。

さらに、市内の飲食店で使用でき、カップルで使うと女性の飲食代が割り引かれる「朝倉市カップルプレミアムチケット」を販売します。

ターゲットを「若い家族世帯」とし、まずは朝倉市について知ってもらい、「定住」につながる具体案を考えました。

1つ目は、朝倉市の自然を生かした親子参加型のイベントを実施します。また、母親、女性目線の観光施設の整備を行います。

2つ目は、観光地や住宅地をコースにした、朝倉市全域を巡るツアーを開催します。

3つ目に、市の特産、名産品をアンテナショップやフェアなどでPRします。その際、福岡県の特産品ブランドイメージを利用し、福岡県朝倉市としてアピールします。

4つ目に、知名度を上げるため、ラジオなどで朝倉市専門の番組を定期配信するなど、マスメディアで全国にPRします。また、見た人が興味を引くよう工夫されたキャッチフレーズを作り、PRしていきます。